

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

12:4 アブラムは、主が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒にであった。ハランを出了たとき、アブラムは七十五歳であった。

12:5 アブラムは、妻のサライと甥のロト、また自分たちが蓄えたすべての財産と、ハランで得た人たちを伴って、カナンの方に向かって出発した。こうして彼らはカナンの地に入った。

12:6 アブラムはその地を通して、シエケムの場所、モレの榿の木のところまで行った。当時、その地にはカナン人がいた。

12:7 主はアブラムに現れて言われた。「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」アブラムは、自分に現れてくださった主のために、そこに祭壇を築いた。

12:8 彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は、そこに主のための祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。

12:9 アブラムはなおも進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。

ここに信仰の父、アブラム（→アブラハム）の出発点があります。私たちの信仰で最も大事なものは愛ですが、その内容は謙遜と従順というところにあります。イエス様は神様に対して完全に謙遜と従順を全うし、その結果、十字架による世界の救いを成し遂げられました。

当初、アブラムは父親のテラとともにその他の家族とともに今のイラクのバグダッドの南東サマーワ周辺にあったと思われるウルという繁栄した港町に住んでいましたが、神様の導きでテラの出身地であるトルコの山奥のハランへ移動していきました。そのハランで神様からの命令が下り、出発となったのです。

愛と謙遜と従順は神様への信仰なしには成立しません。アブラムは期せずしてこの大目標に向かって踏み出したのです。地縁、血縁を断ち切って「わたしが示す地へ行きなさい」という御命令に従うには大きな信仰が必要ですが、アブラムにはそれが神様から与えられていたのです。

神様は約束を与えて人間に使命を達成させるために必要なものはすべて与えてくださいます。神様は私たちに信仰そのものを賜物として与えて神の国への道を歩ませてくださいます。私たちも信仰のゴールをしっかりと見据えて、迷わずに人生を全うしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

